

ミンダナオ島先住民族の子どもたちの地域開発プロジェクト
事業開始前 写真資料

特定非営利活動法人

アジア日本相互交流センター・ICAN

1) 「先住民の子どもに優しい学校」づくり
(ア) 教育施設整備活動



ビアオ小学校では現在、生徒 294 名が学んでいるが、児童対校舎比は、54 平米の教室において教育省の基準に満たない校舎を含んでも児童 74 人に対して 1 教室しかなく、児童増加数に見合う校舎、そして机や椅子等の備品の不足が生じている。

(イ) 児童会の強化活動



フェーズ 1 の活動を通じて、児童会の重要性と先住民の子どもが置かれている状況の厳しさへの認識が学校内で浸透してきている。今後、児童会自身が村の子どもたちの調査を行い、未就学児童を見つけ、通学させるといった形で活動を拡大させるとともに、年度が変わっても同じ機能を維持できるように制度化することが期待されている。

(ウ) 教員の強化活動



フェーズ1の活動を通じて、教員の先住民の子どもへの理解が促進されてきている。今後、フェーズ1の研修の成果を一過性のものではなく、ガイドラインという形で制度化し、定着させていくことが望まれている。

2) 「先住民が文化に根差して持続的に生きていける地域」づくり

(エ) 保健環境向上活動



保健研修の参加者は、フェーズ1において基礎的な技術の習得が終了した。今後、保健研修の参加者が、実際に地域保健の担い手となり、活躍する環境を作っていくことが求められている。

(オ) 生計環境向上活動



生計向上研修の参加者は、フェーズ1において基礎的な技術の習得が終了した。今後、販売につながるマーケティング研修や、会計など組織運営の技術の獲得等を通じて、参加者の増加や組織化を進めていくことが期待されている。